

地震・土砂災害の対応

防災支援センター

初動対応マニュアル(個人)

身の安全確保が一番、冷静な行動

- ◆ 安全確保(揺れが小さい内に移動)
机の下、ベッドの下、床下
- ◆ 揺れがおさまったら、火の元確認、ブレーカー断
- ◆ 外に出る。決められた集合場所(広場)へ移動
- ◆ 自主防災組織とともに行動
(人員確認、不明者宅の搜索)
- ◆ 大規模な余震、津波情報に注意
- ◆ 避難場所の設定、食料の確保



気象庁資料参照

初動対応マニュアル(防災組織)

地域で初動対応を考えましょう!

- ◆ 集合場所(広場)を決めておく(集合する震度等)
- ◆ 人員確認(家庭で一人参集)
- ◆ 状況確認(集合者が見た近所の状況を報告)
- ◆ 未集合者宅へ移動、状況確認
- ◆ 倒壊家屋からの人員救出(現場指揮官)
- ◆ 余震、津波、クラッシュシンドロームに注意
- ◆ 避難場所手配、食料調達



消防庁資料参照

初動対応(防災組織)



防災に対する主体的な「姿勢」が大切

住民同士の意思疎通(助け合いの精神)

事業所、学校との連携強化

防災(初期消火)訓練の実施



日頃からの備え

- 非常持ち出し品を準備しておく
- 水や食料は最低3日分は備蓄しておく
- 避難場所を決めておく
- 危険な場所を知っておく
- 一人で避難できない方の支援について考えておく
- 自主防災組織の活動に参加する

日頃からの備えと避難行動(高齢者)

- ハザードマップで我が家の危険性を把握しておく
- 非常持ち出し品を準備しておく(非常持ち出し袋)
- 水や食料を備蓄しておく(家)
- 避難支援者が早めに来ると思っておく
- 戸締り、火の始末は済ませておく
- 避難支援者が来たら直ちに出発する
- 避難所では、自分で出来ることは自分でやる
- 避難所で皆と一緒に生活が困難な場合は届け出る



内閣府資料

災害に強い地域社会の創出

防災支援センター

